

トピックス Topics

- レポート／人権ゆかりの地で学ぶ(人権スポットツアー)
- 特集／HIV/AIDSと人権～HIV/AIDSの現状とHIV陽性者への支援～
- イベント案内など

あいぽーと徳島では、
さまざまなイベントを
開催しています!



第2回 丹波マンガン記念館
10月7日、京都市にある丹波マンガン記念館を訪れて研修しました。
李龍植(イ・ヨンシン)館長の講演と坑道へ入ったのフィードバックを行いました。李館長は、「丹波山系では、1895年から1983年までの約90年間にわたってマンガンの採掘が行われました。アジア太平洋戦争から1970年ころの最盛期まで、300カ所もの鉱山が活況を呈していました。採掘と運搬は、多くの朝鮮人と被差別部落の人々が担っていました。戦争中には一部の鉱山において強制連行された朝鮮人が作業を強要されていました。この記念館は、丹波マンガンの生成、開発の歴史、利用などに関わる



第3回 京都東山区とツラッティ千本
11月7日、京都市東山区とツラッティ千本を訪れて研修しました。
東山区では、穀雨企画室代表の渡辺毅さんの案内で、かつて葬送の地でもあった古社寺などに立ち寄り、京のみやこの文化、産業を支えた被差別民衆の歴史を学びました。
平安京の葬送地の一つ「鳥辺野」の入り口にあたる「六道之辻」の中心にある六道珍皇

資料を収集、展示するとともに、かつての坑内の作業を再現することによって、丹波マンガンの全体像を後世に伝えようという活動を行っています。」と語られていました。



寺や、摩利支天堂、京都えびす神社、目黒地蔵仲源寺、八坂神社などをフィードバックし、中世から近世にかけて文化、産業を支えてきた被差別民衆の仕事や生活に関わる話を聞き、人権について学びました。
ツラッティ千本では、「ツラッティとは『連れ立って』という意味です。千本地区の歴史や住民参加のまちづくりなどを通して、同和問題をはじめ広く人権問題について学んでいただく展示施設として、京都市が運営しています。現在は、柳原銀行記念資料館との共同特別展『全国水平社創立宣言』を開催中です。」と職員から解説があり、同和問題を中心に人権問題について学びました。

人権ゆかりの地で学ぶ(人権スポットツアー)



ピアノ弾き語りコンサート =ありのままの私を愛して=

平成26年度「人権教育啓発・男女共同参画の推進」啓発行事

- 日時: 平成27(2015)年1月31日[土]午後1時30分～
- 会場: ときわプラザ(男女共同参画交流センター フレアとくしま)(徳島市山城町東浜傍1)
- 主催・問い合わせ
あいぽーと徳島(徳島県立人権教育啓発推進センター) Tel.088-664-3719
ときわプラザ(男女共同参画交流センター フレアとくしま) Tel.088-655-3911

参加無料

※参加の申込みについては、あいぽーと徳島のホームページ等で案内します。



シンガーソングライター 沢 知恵(さわ ともえ)さん プロフィール

コモエスタ・ともえ基金代表
1971年生まれ。日本、韓国、アメリカで育ち、3歳からピアノを弾く。東京芸術大学楽理科在学中に歌手デビュー。最新作「谷川俊太郎をうたう」など26枚のアルバムを発表。第40回日本レコード大賞アジア音楽賞受賞。
「日本語をもっと美しくうたう歌手」と評され、圧倒的迫力のパフォーマンスで、老若男女に支持されている。東京での季節公演をはじめ、ハンセン病療養所、災害被災地、少年院などでも積極的に活動。おもなテレビ出演「ハートネットTV」「徹子の部屋」「題名のない音楽会」など。



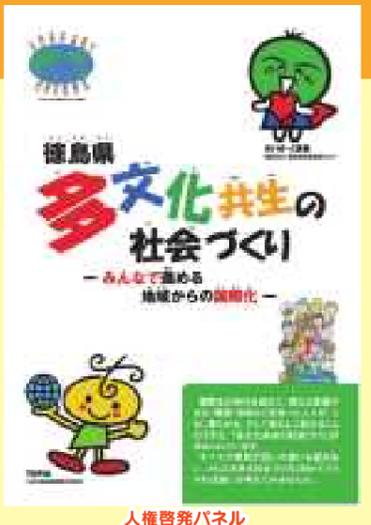
人権啓発パネルを新作しました!



あいぽーと徳島では、人権に関する図書・DVD・展示パネル等を無料で貸出しています。窓口で貸出カードを作成していただくと、どなたでもご利用できます。学校・企業・グループ・個人でぜひご活用ください。



今年度、新刊コーナーを増設しています。みなさんのご利用お持ちしています。



人権相談のご案内

あいぽーと徳島では、人権擁護委員・弁護士による人権相談を行っています。まずは電話にてご連絡ください。

Tel.088-664-3701

一人で悩まずお電話を

- 人権擁護委員による相談
第2・第4土曜日(10:00～16:00)
- 弁護士による相談(要予約)
第1・第3金曜日(13:00～16:00)

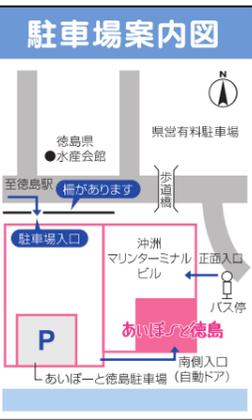
面接相談及び
電話相談

面接相談

[編集・発行]

あいぽーと徳島

徳島県立人権教育啓発推進センター
指定管理者 特定非営利活動法人ヒューマンライツ 文化・福祉ネットワーク
〒770-0873 徳島市東沖洲2丁目14 沖洲マリンターミナルビル内
Tel.088-664-3719 Fax.088-664-3727
● 開館時間/午前10時から午後6時まで
● 休館日/月曜日(祝日の場合はその翌日)
年未年始(12月29日から1月3日まで)
<http://www.aiport.jp>



公共交通機関のご案内 JR徳島駅前から徳島市営バス【中央卸売市場】行きに乗車し、【沖洲マリンターミナル】にて下車。

HIV/AIDSと人権

～HIV/AIDSの現状とHIV陽性者への支援～

第3回人権教育啓発リーダー養成講座 ●平成26(2014)年9月11日実施



講師

清水茂徳さん

ライフ・エイズ・プロジェクト代表

■LAPの活動を始めた当初
印象に残っているエピソードをひとつご紹介したいと思います。当時、日本で初めて性的接触によってHIVに感染したことをカミングアウトした平田豊さんという人がいました。テレビでもよく取り上げられていた方ですが、その方の外出のお世話や話し相手などを、僕たちがしていました。当時20歳ぐらいだったヒロミさん(仮名)という方も一緒に活動していたのですが、ある時、ヒロミさんがお母さんに説教されました。「あんたは毎日プラプラして、一体どういうつもり？平田豊さんという人が、エイズになっても頑

■活動を始めたきっかけ
私が活動を始めたのは専門学校生だった頃。学校の講師の方が、ハワイ在住のシヨーン・テューケーさんというエイズ患者の方を日本に呼んで講演会をすすめようとした。そのお手伝いをしたのがきっかけでした。高校生の頃からHIV/AIDSについてのおおまかな知識はあったのですが、ちゃんと勉強を始めたのはこの講演会のお手伝いからです。怖い病気だ、セックスでうつらしいけど自分には関係ないと思いつつも、コンドームを使えば予防できるぞと知って「な〜んだ」と思ったのをよく覚えています。結局、心を閉ざしていたのは僕の方だったのです。当時、最先端の話だったこともあり、ミーハーだった僕は(笑)、1993年2月に「LAP(ライフ・エイズ・プロジェクト)」という団体を立ち上げて、それ以来、代表を務めています。

講演概要

HIV/AIDSとは?

HIV	AIDS
Human ……ヒト	Acquired ……後天性
Immuno- ……免疫	Immuno- ……免疫
deficiency ……不全	Deficiency ……不全
Virus ……ウイルス	Syndrome ……症候群
ウイルスの名前	病気(症候群)の名前

間違われたり混同されたりしがちですが、「HIV＝ウイルスの名前」「AIDS＝病気(症候群)の名前」という明確な違いがあります。簡単に言えば、HIVに感染した人が発症する病気の名前がAIDSということになります。

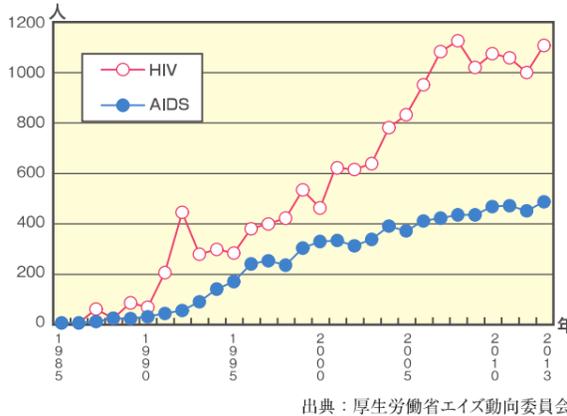
HIV感染予防の豆知識

- HIV陽性者とのコンドームをつけない性的接触での感染率は0.1～1%(WHO)だが、100回の性的接触は案外簡単にクリアしてしまう。
- クラミジアや淋病、梅毒といった性感染症に感染している場合、HIVにも感染しやすくなる。
- 「自分は安全な人としかセックスをしないから大丈夫」という人ほど要注意。

「ウイルスは中立・公正・無地」という言葉があります。ウイルスは意思をもっているわけではないので、誰もが平等に感染する可能性があるのです。「私は大丈夫」といった気持ちは過信でしかなく、性的接触(セックス)という経路があれば、感染しないとは言いきれません。逆に、経路を断れば(コンドームを付けてセックスすれば)、感染しようがないとも言えるのです。

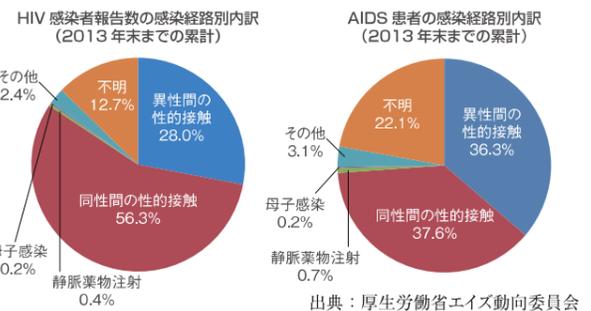


新規HIV感染者・AIDS患者報告数の年次推移



最近5年間の報告件数は、HIV感染者が5,260件で、これは累計の33.3%。一方でAIDS患者は2304件で、こちらは累計の32%を占める状況となっており、近年になって報告される数が増えてきています。

HIV感染者・AIDS患者報告累計数の内訳



HIV感染者では異性間の性的接触が約3割、同性間の性的接触による感染が約6割。AIDS患者では異性間の性的接触、同性間の性的接触による感染がともに約4割。これは、同性愛者が特に感染しやすいというわけではなく(ウイルスは中立・公正・無地のため)、特に男性の同性愛者はHIVに対する意識が高く自発的に検査する人が多いため、症状が出る前の段階、つまり感染した時点で報告されるケースが多いということを意味しています。

■HIV/AIDSを取り巻く社会と人権
HIV/AIDSを語る上では、性教育や就職、結婚、医療保険などの様々な社会問題、また性同一性障害などセクシュアリティにおける人権問題

■HIV感染者・AIDS患者数の現状
今となつてはHIV/AIDSという言葉も一般化しており、そのため同時に、「過去のもの」と思われがちですが、決してそのようなことはありません。HIV感染者およびエイズ患者報告数の年次推移を見ると、新たなHIV感染者の数はここ数年、増加数に大きな変動がないように思われますが、保健所などの検査数そのものが減ってしまっているという現状もあるのです。概には言えませんが、エイズ患者も、やはり減ってはいない状況です。こうして見ていくと、決して「過去のもの」などではなく、「現在進行形のもの」と考えられるのです。

張つて生きてるっていうのに、あなたはそれに比べてどうなの?」と。それに対してヒロミさんが「今日、平田さんのところに行ってきたんだよ」と返したら、途端にお母さんが「うつつたらどうするの?やめなさい」と、手のひらを返したように態度を変えたそうです。



を避けて通ることができません。社会的な偏見差別については、AIDSに関する世論調査を見ても「ウイルスの感染者に対する社会的な偏見や差別があつてはならない」という質問に「同感する」「どちらかと言えば…」という人が84%もいる一方で、AIDS患者やHIV感染者と一緒に働くことについて、「好ましくない」とする人が10%、「どちらかといえば好ましくない」とする人が35%と半数近くもいるのが現実です。つまり、一般論として差別や偏見はいけなけれども、自分の側に来てもらうのは困る、という構造になっているのです。

HIV/AIDSには死の病というイメージが根強く残っていますが、現在では早期に治療を始めることで長期間健康を維持できますし、また予防も可能です。そのことをきちんと伝えて、社会的な偏見や差別といった問題がある現状を改善していくために、僕たちはこれからも活動を続けていきたいと思っています。

参加者の声

●性に関わる内容については、聞き手としてまだまだ拭いきれない抵抗感があった中にも、当事者を取りまく周囲の状況が理解できました。科学的に正しく理解し、しっかりと向き合う必要があることに、改めて気づくことができました。



●親しみやすい語り口調と、分かりやすい構成で、セクシュアルマイノリティに対する理解の視点や当事者の話など臨場感がありました。

●少し身近な生活から遠のいていましたので、改めて正しい知識と差別について、認識することができて良かったです。清水さんの「内なる愛が外への差別に広がる」という言葉に震えがきました。